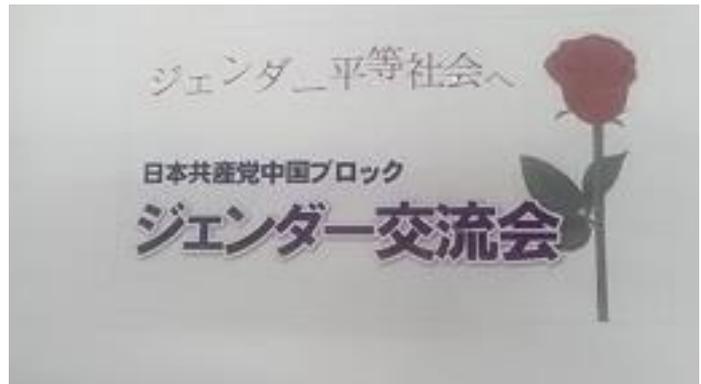


日本共産党中国ブロック・ジェンダー交流会を開催

ジェンダー平等社会の実現を

日本共産党中国ブロックは、11月3日、中国5県の県議、市議、女性後援会事務局らが参加した「Zoom交流会」を開催しました。大平よしのぶ前衆議院議員、すみより聡美比例中国ブロック予定候補も参加しました。

会議での発言のなか、竹永光恵岡山市議団長の発言の一部（パートナーシップ制度について）を紹介します。



岡山市では男女共同参画社会基本法の策定にあたり、市民協働が貫かれ、すべての公民館で市民を対象にワークショップをおこない、2000年に市民協働で条例が制定されその中に、DV被害者支援も位置づけ、教育の責務までうたった画期的な中身の条例となりました。

2015年に調査特別委員会「多様性のある社会実現調査特別委員会」が設置され、私が委員長にならせていただく。委員長の任期2年間で7回の会議、勉強会、視察など重点的に行い、この特別委員の委員はこの問題のスペシャリストになろうと呼びかけ充実した内容を提案しました。

この間の成果として、プラウド岡山さんと市民協働事業で、学校現場へのアンケート、学校用啓発マニュアル、市役所内全職員対象にアライ（LGBT理解者のことを沖縄ではそう呼ぶ）になるうとの立場で職員マニュアルの作成、研修は全員を対象にしました。



そして2020年7月、パートナーシップ宣誓制度を導入、現在6組のカップルが誕生しました。

2020年8月、全県下の女性市議の会が岡山市で行われホスト市として、内容をまかされパートナーシップ宣誓制度導入に向けての話と、プラウド岡山からLGBTについての講義をしてもらいました。

パートナーシップ宣誓制度は引っ越したらリセットされるので県下で連携できることが必要なので今回の勉強会で学んだことを各市で取り組んでほしいとの意味で行いました。

結果、9月議会で複数の市が質問でとりあげ、(県下岡山市と総社市だけが実現している)。笠岡市では前向き答弁があったとのことなど大きな成果をあげました。

現在、岡山市では福岡市と11月1日から、広島市と1月から連携できるようになるほか、熊本市と北九州と調整中です。